

2011 年春季全国研究発表大会ルポ

大会実行委員会

本学会の2011年春季全国研究発表大会は5月28日と29日の両日、神奈川県川崎市の専修大学生田キャンパスで開催されました。当初、発表締切を予定していた3月15日の直前に東日本大震災に見舞われました。まずは、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りし、被災された方々、未だ避難されている方々へのお見舞いを申し上げます。3月中は電力事情や交通事情、さらには原発問題など、いくつもの不安材料が払拭できない中で、このまま開催できるのかも危ぶむ声もありました。実際3月中に開催の学会は中止せざるを得なかった場合も多くありましたし、同時期開催の別学会の開催場所が西日本方面に変更されたとも聞きました。実行委員会では5月には通常通りに近い状況になっていると考え、なんとか開催に漕ぎ着けたいということで準備を進め、当日を迎えました。

一日目の午前と午後は一般発表のセッションが続きました。午後は、「災害と情報支援」のパネルセッション一つを含めて8セッションで開始されました。このうち「情報システム2」のセッションでは、企業情報システムの運用記録の分析に基づいた運用問題に関する報告があり、わが国でのシステムの開発姿勢に問いかける大変意義深い議論がなされました。特に、1人称システム分析における現象学と活動理論の報告では、欧州を中心に実践されているシステムの「論理」分析の有効性を理論的に裏打ちす

る内容であり、活発な質疑応答と有意義な議論が展開されました。

これらの一般発表に続いて、論文賞の表彰と基調講演がセッティングされました。今年度の論文賞は京都産業大学の中野氏、日本大学の秋川氏、元専修大学の島津氏の「組織能力論にもとづいたサプライチェーン・プロセスの 変革についての概念モデル」に贈られました。この研究は2006年から行われ、SCMを経営戦略、経営組織論、および組織能力論からアプローチし考察されています。

発表内容は、研究動機、先行研究、概念モデル、事例研究、その後の研究という順で行われ、サプライチェーンのプロセスを変革しなければならないこと、顧客関係管理や顧客サービス管理、製造フロー管理等を見直さなければならないこと、Bowersoxらの能力に関する研究や、戦略的な資源→持続的な競争優位→比較優位のパフォーマンス→組織学習と言う Olavarrieta and Ellinger のモデルの評価、およびその中から得られた概念モデルとしてオペレーションの組織ルーチンの修正→サプライチェーン・プロセスの統合→パフォーマンスの評価→オペレーションのルーチンを修正する組織ルーチンの形成、と熱い語りで発表が続きました。事例の紹介では、ポッカコーポレーション（飲料）、花王（日用品）、資生堂（化粧品）、ダイキン工業（空調機器）、X社（化粧品）、カルビー（菓子）について紹介され、得られた発見事実の一例として、ポッカは毎週レビュー会議を開催し、お互いが繰り返し責任を追求し、どうすれば良いのかを検討した結果、キャッシュフロー重視の経営への理解が深まり、徐々にパフォーマンスが向上したとのことでした。

今後の研究課題としては、企業内修正モデルの追試、企業間モデルの開発精緻化、および引き続きサプライチェーン・プロセスの変革を成功に導く要因の解析に関し研究を続けるとの説明があり、発表を締めくくりました。



研究発表の様子



論文賞表彰式

基調講演は日本情報システム・ユーザー協会の細川泰秀氏による「日本の企業情報システムの未来」でした。同協会の副会長を長年努められてきた経験を中心にじっくりと語っていただきました。今回の大会テーマ「日本の情報システムの未来」の柱となる講演でした。



基調講演 細川氏

総会に続いて9号館に場所を移して懇親会が開かれました。懇親会は、プログラム委員長の奥村経世氏の司会により18時過ぎに開始しました。専修大学副学長室井義雄氏からの歓迎のあいさつに続き、本日総会後の理事会において選出された経営情報学会新学会会長平野雅章氏による学会のミッションが提唱されました。続いて、前首相の鳩山由紀夫氏が専修大学におよそ3年間奉職していた縁で参加され、経営情報学会への期待と法人化のお祝いを述べられました。そして、前会長で新副会長の國領二郎氏による乾杯となり、歓談や情報交換などが始まりました。鳩山前首相のまわりには人垣ができ名刺交換や写真撮影が盛んに行われました。

ビールやワイン、おいしい料理を味わいかなり気分もよくなってきたところで、前回大会の開催校（中京大学）への感謝状の贈呈があり、さらに、上



懇親会

杉志朗氏から、2011年秋季大会（愛媛大学）についての紹介と参加呼びかけがありました。

2日目も一般発表が続きました。午前中は七つのセッションがパラレルに設けられました。その中の「ビジネスモデル」セッションでは、わが国においても成長が著しい、ソーシャルゲームやSNSなど、ネット上に構築される社会的ネットワークを基盤とするビジネスに焦点が当てられました。経営情報学では、ビジネスとしての成立要件や成功要因は、重要な考察視点です。セッション全体の質疑を通じて、経営情報学が真にビジネス分野に貢献するためには、伝統的な学問領域の結果を借用した現状分析や、その分析に基づくビジネス提案というレベルを超えて、現象に対して多様で深い意味を与えるために、現象に正しく向き合い、その結果を踏まえて、哲学的あるいは理論的な考察を十分行うことが求められるとの認識に達しました。

午後の特別講演は、日本最大級の住宅・不動産情報ポータルサイト『HOME'S』を企画・運営をする（株）ネクスト社長の井上高志氏により行われました。井上氏は講演で、1990年に、就職の集団面接で自分は何もやって来なかったこと、また目的を持って渡米した彼女に振られ自分はそれまで目的を持たず生きてきたことを思い知らされた。そこで、5年後に起業すると誓いを立て、（株）リクルート関係の会社に就職し、そこで不動産関係のノウハウを得て、1995年に不動産関係のネクストホームを創業されました。その後、1997年に（株）ネクストを設立したが、会社に明確なビジョンがなかったため会社崩壊の危機があったことなどをお話しにされました。また、失敗しても良いから、挑戦するこ

とが大事である。すなわち、批判より提案，思考より実行であると話されていました。社是は『利他主義』で，失敗があってもそれを糧にし，13年で一部上場企業へ育てるバイタリティには感心させられました。



特別講演 井上氏

特別講演の後，引き続き14時15分から一般発表セッションが始まりました。「経営戦略2」のセッションでは，三つの発表がありました。最初の発表では四つの戦略タイプによるITインフラストラクチャの違いを抽出する試みが発表されました。2番目の発表では，日系百貨店のシンガポール進出事例の分析が紹介されました。そして最後の発表では，

企業変革における五つの重要要素と三つの戦略的意図の関係を概念的に示す提案でした。悪天候ということもあり参加者は若干少な目でしたが，多数の質問がフロアから出され，活発な議論が展開されました。

会場の生田キャンパスは駅から決して近くないばかりか，その道程はひたすら登りの山道と決して参加者にやさしくなかったため，今回の大会では最寄り駅からキャンパスまで専用バスでピストン輸送をすることといたしました。当日はまだ5月というのにもかかわらず台風が接近するという悪天候でしたが，多数の熱心な参加を得ることができました。また，当初はかなり危惧していた発表件数，参加者数とも，蓋を空けてみると例年並みとなり，ホッと胸を撫で下ろしました。発表・参加されたすべての皆様に感謝申し上げます。

これまでルポ記事はフォーラム誌の編集委員が手分けをして作成されていたということですが，今回は実行委員，プログラム委員で手分けをして取材をしてまとめました。不慣れなこともあり，読みづらい点もあったかと思いますが，ご了承ください。